

こども × マナブ



川島隆太
①ん太

頭の中の「机」を広げよう

デジタル時代の教育についてさまざまな専門家の見方を紹介する企画「こども×マナブ」。最初にインタビューしたのは「脳トレ」ブームの生みの親でもある東北大学の川島隆太教授です。

—書き写しを習慣にするメリットは
子どもなら確実に脳発達を促進します。大人にも認知機能の低下を防ぎ、記憶力の向上が見込めることが実験で分か

っています。
—取り組むときのポイントは
体のトレーニングと同じ。おもりを徐々に増やしていくイメージで、まず子どもの負担にならないレベルから定着させることが大切です。そのためには書き写しの目的を親子で一緒に考えること。自分自身で脳を発達させ、学習や遊びの幅を広げる。それが人生をより楽しめるゴールにつながります。

—「書きトレ！」は、子ども向けのニュース記事を書き写します。

何を書いているのかよく分からないものと異なり、子どもたちのやる気に大きな差が出ます。慣れてきたら社説や自分が気になる記事を選んで、書くことを増やし、原稿用紙に書いても良いと思いますよ。

—ニュースに触れるのは大切？

最近ではフェイクニュースと呼ばれるニセ情報がたくさんあります。SNS（交流サイト）などで知った情報を反射的に拡散する人も増えていきます。「自分を取り巻く環境の正しい情報を得る」というの

はとても重要です。

—書き写しを継続するとどうなる？

頭の中に学習机をイメージしてください。頭を使うほど大きくなり、勉強にも使える。書き写しは机を大きくし、未経験のことを解決する力も身につくと期待できます。スマホばかりいじっていても机は大きくなりません。（お客さまセンター・宮下雅太郎が担当します）

かわしま・りゅうた 東北大学加齢医学研究所教授。「脳トレ」ゲームの監修者としても知られる脳機能開発研究の第一人者。